

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：教務機構	担当部局：教務機構
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.4 成果	
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。	
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)―(専門)	

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生の学習を振り返ることのできるシステムをICTを活用して開発する。	→学習管理システムの構築	C	C	B	B	B
2. 学生の学習成果を測定できるシステムをICTを活用して開発する。	→成果測定システムの構築	C	C	C	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 高等教育推進センターでは、2010年9月より学習支援システムとしてLearning Management System(LMS)を導入し、運用してきた。教職教育研究センター、および、教育学部では、LMSを教職ポートフォリオとして活用している。また、グローバル人材育成事業においては専用のポートフォリオを導入した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か LMSは、2013年度において、大学開講科目の38.7%の科目で活用されている。具体的には、教員からの教材提示・連絡、学生からの課題提出と質問、学生間の学修コミュニティの構築などに利用されている。LMS稼働後の全ての教材や提出物などを保存しており、学生はLMSを通じて行った学習履歴を常に振り返ることができる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後は、活用事例の紹介や利用者サポートを充実することにより、より多くの科目で利用されるよう普及・促進を図る。ポートフォリオについては、これまで目的別のポートフォリオの導入・運用は行ってきたが、全学で利用できる汎用的なポートフォリオの構築については、関係部局と十分な検討を重ね、大学全体として進めていく必要がある。	☆
		その他	☆

目標2	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学習成果を測定するシステムを開発するには、評価を行うための前提となる指標を整備することが必要であり、学部毎に2011年度に指標となる学位授与方針(=DP)やカリキュラムマップを設定した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 現時点では、システム開発は進捗していない。学習到達度の評価に関して、中期計画(前期)で計画していた自己評価のみでよいのか、教員もしくは、学生間での相互評価をあわせて行うべきか、再検討する必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 大学全体で、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーと関連させ、学習成果の測定方法について、再検討を行う。	☆
		その他	☆
備考			☆